

塚本快示（1912-1990）

陶芸家の塚本快示は、宋時代（960-1279）の磁器を再現することに成功した功績を認められ、1983年に人間国宝に認定された。宋代の陶磁器は、シンプルな形と淡い色調の釉薬が特徴である。特に白磁に長石や生石灰などの融剤を混ぜた透明な木灰釉をかけた「白磁」に関心があった。また、白磁の釉薬に少量の鉄分を加え、低酸素環境で焼成した青白磁にも注目した。

展示されている大皿は、白磁の特徴である乳白色を実現するための塚本の技術を示すものである。縁には花模様が彫られている。これは「片桐彫」という技法で彫られている。片桐彫りとは、ノミを斜めにして片側に深い溝を作る彫り方である。この溝に釉薬が溜まると、深さの違いによって立体感が生まれ、彩色にもグラデーションが生じる。